エコロジカル・デモクラシー観測グループ

2016 年度世田谷まちづくりファンド「まちづくり活動部門」応募企画

世田谷のまちづくり活動・交流の活性化 世田谷の市民活動を【流域】－【市民憲章・都市宣言】につなぐプロジェクトへのご協力のお願い

このプロジェクトは、「日常的な生活、身近な市民活動」と「広域的な自然の循環、都市の掲げる高い理想」とをつなぐきっかけを提案し (①名刺づくりプロジェクト、②活動訪問プロジェクト、③交流プロジェクト)、**世田谷のまちづくり活動とその交流ネットワークを深化・活性化する**こと、また**世田谷の自然とまちの理想像を豊かにする**ことを目的としています。このプロジェクトの目玉は「①**名刺（リバーネーム / シビックネームカード）**づくり」であり、市民活動を行っている方々の名刺をデザインして、それを世田谷ファンドの交流会や市民活動の現場で使ってもらい、交流を活性化させる、という趣旨です。

私たちは、世田谷まちづくりファンド申請グループの皆さまが活動されている場を訪問し、活動のお話を聞かせていただいき、皆さまの協力を得て名刺を作りたいと考えています。お忙しいところ大変恐縮なのですが、ぜひ活動の場を訪問させていただき、お話を聞かせていただけると嬉しいです。よろしくお願いします。

エコロジカル・デモクラシー観測グループ
e-mail: y.yoshida.5@gmail.com

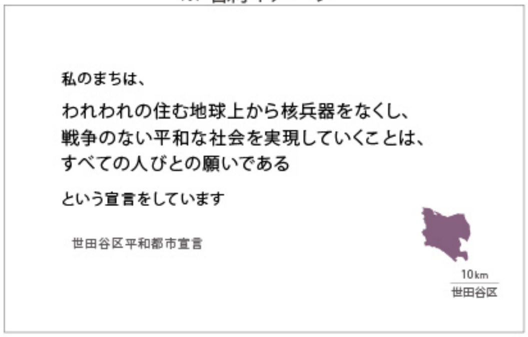
プロジェクト内容

①名刺づくりプロジェクト
右の図に示すような市民団体を紹介する際に用いるオリジナル名刺の作成を行います。

②訪問プロジェクト
名刺を作る、交換する、その後の活動・交流といった各段階での聞き取り調査を現地訪問して行います。次のような項目について聞き取りをします。（名刺を通じた話題や会話内容・活動場所や自然環境に対する意識・名刺のデザインや内容への感想・意見）

③交流プロジェクト
上記情報を掲載するウェブページを作成し、各活動の紹介とともに、同活動の流域内での新たな意味や価値、憲章や宣言とのリンクを私たちが見出し、報告・周知活動を行います。

※ 名刺イメージ



世田谷を流れる川・憲章と宣言

平和都市宣言
われわれの住む地球上から核兵器をなくし、戦争のない平和な社会を実現していくことは、すべての人びとの願いである。……

健康都市宣言
世田谷区は、東京都の西の玄関として近代都市への道を歩んできたが、急激な都市化は、区民の健康に影響をおよぼし、今や環境を保全すべき重要な段階にきている。……

子ども・子育て応援都市宣言
子どもは、ひとりの人間としてかけがえのない存在です。……

ほかに、
交通安全宣言、世田谷区風景づくり条例、世田谷区街づくり条例、世田谷区民自転車利用憲章などがあります。

「応募の手引き」をよくご覧のうえ、ご記入ください。ＰＣにて作成、または黒インク、ボールペンで記入してください。

はじめの一歩部門の助成を（受けた・受けていない）
はじめの一歩部門を除き（１回目・２回目・３回目）

第24回 公益信託世田谷まちづくりファンド助成事業

まちづくり活動部門　応募用紙

2016年　4月13日

１．活動企画テーマと活動グループについて

(1) テーマ	世田谷のまちづくり活動・交流の活性化 世田谷の市民活動を【流域】－【市民憲章・都市宣言】につなぐ		
(2) 事業実施期間	2016年4月　～　2017年3月	(3) 助成申請額 （万円未満は切捨）	23万円
(4) グループの名称	フリガナ 名称	エコロジカル・デモクラシーカンソクグループ エコロジカル・デモクラシー観測グループ	
(5)代表者氏名	フリガナ 氏名	キタバタケ　タクヤ 北畠　拓也	
(6)公開できる連絡先	y.yoshida.5@gmail.com		

２．応募の理由と応募する活動内容について

(1) 応募の理由（2,3年目グループは、昨年度の活動と比し発展させる点、新たな取組についても記入してください）

世田谷区に流れる川をご存じだろうか。烏山川、北沢川、蛇崩川、目黒川、ほか名称不明1本【目黒川流域】、九品仏川、呑川【呑川流域】、仙川、野川、谷戸川、谷沢川、丸子川、ほか名称不明2本【仙川・野川・谷沢川及び丸子川流域】、多摩川【多摩川流域】など、15本の川とその流域が区内にある。

また世田谷区の掲げるまちの指針・理想（市民憲章、都市宣言）をご存じだろうか。区では平和都市宣言、健康都市宣言、子ども・子育て応援都市宣言をはじめ、区の風景づくり条例に基づく界わい宣言（玉川地域、砧地域、北沢地域など）を採択している。

世田谷区に住む、働く、学ぶ、遊ぶことは、上に挙げた自然（川）の循環と都市の指針の中で、生きるということである。しかし、これら流域の大きなスケールの循環、都市の憲章や宣言といった高く掲げた理想、は普段生活するなかで意識することはほとんどない。

今回提案する企画は、「日常的な生活、身近な市民活動」と「広域的な自然の循環、都市の掲げる高い理想」とをつなぐきっかけを提案し（①名刺、②活動訪問と報告、③交流イベント（ファンド交流会））、世田谷の自然とまちの理想像を豊かにすることを目的としている。

(2) 地域･まちづくりに貢献する点

世田谷区では、「日常的な生活、身近な市民活動」と「広域的な自然の循環、都市の掲げる高い理想」とをつなぐきっかけとなる下地がすでにある。それは世田谷まちづくりファンド（トラまち）の交流会であり、ファンドに参加する市民グループの活動である。この世田谷にあるまちづくりのサイクルを、私たちの視点から応援し活性化に結びつけることで貢献したい。具体的には、流域や憲章・都市宣言といったこれまでほとんど省みられなかった自然や都市全体の要素を付け足して表現する「①名刺づくり」と、これを作成するための市民活動の現場訪問とそれを報告する「②訪問プロジェクト」を行うことを通じて、それぞれのまちづくり活動に対し、私たちが流域や都市の理想像から新たな意味や価値を、再発見し、広く発信することで世田谷のまちづくりに貢献する。また、世田谷まちづくりファンドの交流会の場に対して、上に述べた名刺の交換を行う「③名刺交換ワークショップ」を企画し、流域単位の活動の展開や高い理想を共有できるような、グループ間の交流の拡大を図ることで地域の交流に寄与したい。

●この応募用紙に記載する全ての事項は、助成先の選考等、運営に必要な範囲で、本公益信託の委託者･受託者･運営委員･信託管理人が取得･利用します。助成が決定した場合は、グループ名･代表者名、活動内容等の情報が主務官庁へ提供される他、一般に公開されます。
●本応募用紙の印刷物は、まちづくりグループ同士の交流のため、公開審査会で配布します。

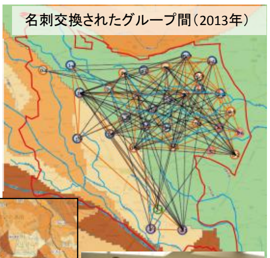
○以上に同意の上、応募します。（右記にご署名･ご捺印ください。）　代表者名　　　　　　　　　　印

(3)活動内容

①名刺づくり：右の図に示すような市民団体を紹介する際に用いるオリジナル名刺の作成を行う。
②訪問プロジェクト：名刺を作る、交換する、その後の活動・交流といった各段階での聞き取り調査を現地訪問して行う。以下のような項目を聞き取る。
・名刺を通じた話題や会話内容
・活動場所や自然環境に対する意識
・名刺のデザインや内容への感想・意見
　上記情報を掲載するウェブページを作成し、各活動の紹介とともに、同活動の流域内での新たな意味や価値、憲章や宣言とのリンクを、私たちが見出し、報告・周知活動を行う。
③名刺交換ワークショップ：下の図に示すようなファンド交流会における名刺の交換会を企画、実施する。交換会でアンケート調査も行い、流域や都市全体でのつながりを考える場としたい。

「③名刺交換ワークショップ」実施イメージ

（参考事例：2013年　ウェルカム懇談会プログラム）
日時：2013年6月27日(木)　18：30～(2H)
場所：三茶しゃれなーど
グループ数：32グループ
プログラム：①参加者で世田谷のマップを作る。②同じ地域の人と名刺交換をして話す。③地域を出て自分の話したい人と名刺交換をして話す。④自分の地域に戻り、どんな人に会ったか報告する。⑤全体で感想を共有する。



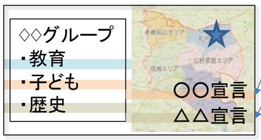
①名刺づくりイメージ

名刺のリ・デザイン案（表）

自分の居住地・活動地に関連する「川」を選んでもらい、その川の情報と一緒に自己紹介ができる名刺をつくります！！
具体的には、
・「苗字ー（川の名前）ー名前」をつくって表現します！
・居住地または活動エリアを流域図上で表現、背景イメージに！
・川や地域の自然に対する思い、一言コメントを頂き、掲載します！

世田谷区の川、流域

名刺のリ・デザイン案（裏）



シビルネーム（裏）

世田谷区で採択されている市民憲章・都市宣言の一覧から、好きなもの/大事にしたいものを選んでもらい、自分の活動と一緒に紹介できる名刺をつくります！！
具体的には、
・「グループの名称」と「憲章・都市宣言」を並べ、両者の相関が分かるように、活動分野や対象エリアなどを色や地図上で表現します！

世田谷区の市民憲章・都市宣言

☑平和都市宣言
☐健康都市宣言
☑子ども・子育て応援都市宣言
☐交通安全宣言
☐多摩川・ドナウ川友好河川共同宣言
☐成城憲章
・・・
世田谷区風景づくり条例における「界わい宣言」
　☐奥沢・土とみどりの街づくり宣言（奥沢２丁目）
　☐国分寺崖線ぞいの道の景観と環境づくり宣言（瀬田１丁目）
　☐桜並木の保全と景観の維持並びに環境づくり宣言（成城１、２丁目）
　☐桜並木街区の景観維持保全ならびに環境づくり宣言（上北沢3丁目）
・・・
世田谷トラストまちづくりの「地域共生のいえづくり支援制度」による憲章
☐「ぬくぬくハウス」
☐茶論（さろん）ONE COIN　など18の憲章

※まちづくり活動、仕事/プライベートなどの様々な場面での利用を考え、5種類程度のデザインを用意し、選んでもらう。1グループ代表者2－3名分を作成予定。1名当たり100枚（両面）

(4)実施スケジュール

時期	具体的内容
4月～6月 （活動発表会・公開審査会・はじめまして交流会）	（5月） ・交流会における名刺交換ワークショップ実施をトラストまちづくりおよびファンド運営委員会に提案・了解を得る。 ・「ファンド交流会（6/21、10/22）」で使用できるオリジナル名刺のデザイン・作成 ⇒参加するいくつかのファンド助成グループを対象【10Gを目標】 （6月） ・「公開審査会（6/5）」に向けての発表準備 ・「はじめまして交流会（6/21）」にてオリジナル名刺を通じた交流を企画 ⇒交流会の場でアンケートの実施、その後、集計・分析・報告
7月～9月	（7-9月） ・ファンド助成グループの活動現場の訪問＆オリジナル名刺の作成 ⇒オリジナル名刺を使った感想、デザインや記載内容のアイデア、まちづくり活動や交流への影響をヒアリング【20Gを目標】
10月～12月 （世田谷まちづくり交流会）	（10月） ・「世田谷まちづくり交流会（10/22）」にてオリジナル名刺での交流を企画 ⇒交流会の場でアンケートの実施、その後、集計・分析・報告 （11-1月） ・ファンド助成グループの活動現場の訪問＆オリジナル名刺の作成 ⇒オリジナル名刺を使った感想、デザインや記載内容のアイデア、まちづくり活動や交流への影響をヒアリング【20Gを目標】
1月～3月 ※5月頃 最終活動発表会	（2-3月） 年間レポート（訪問した記録、カードによる活動や交流の分析）の作成と報告

３．活動の体制について

(1) 活動に携わるメンバーの氏名/年代/所属・職業（代表者・連絡責任者も含む）
※メンバーの氏名は必ず本人の了解を取った上で掲載してください。（公開されます）

	氏名	年代	所属・職業
①	（代表者） 北畠拓也	20	東京工業大学・学生
②	吉田祐記	30	東京工業大学・研究員
③	所谷茜	20	東京工業大学・学生
④	坂村圭	30	東京工業大学・学生
⑤	土屋陽子	20	会社員
⑥	土肥真人	50	東京工業大学・准教授
⑦			
⑧			
⑨			
⑩			

メンバーが 10 名を超える場合は、その方々の氏名のみお書きください。

合計　6名（うち世田谷区内在住　2名 / 在勤　名 / 在学　名）

(2) グループ設立の経緯と今までの実績（設立年・経緯、目的、活動履歴、現在の会員数など）

メンバーの一員でもある土肥真人氏が世田谷まちづくりファンドの運営委員長を務めている頃から、現在に至るまで、東京工業大学の学生有志で、世田谷まちづくりファンドの様々なイベントに参加してきた。

2013 年、土屋陽子氏（当時、東京工業大学・修士生）を中心とする学生有志で、まちづくりファンドの「ウェルカム懇談会（2016.06)」や「まちづくり交流会（2013.10)」といった交流会の企画・運営やまちづくり団体への訪問活動（2016.07-11）を行ってきた。また翌年の 2014 年には、まちづくりファンド新部門（現：キラ星部門）の創設に向けた「ギャザリング（2014 年 4－7 月)」へ参加し活動を応援してきた。現在もキラ星部門に関わるワークショップやギャザリングにも打ち合わせや当日の準備・参加し、応援している。

上に挙げた、まちづくりファンドの懇談会、交流会、ギャザリングは、ファンドで築き上げてきた助成グループ間のつながりを、助成部門間や活動分野を超えるようなつながりを生み出している。このようなつながりをさらに拡大するために、また特に部門間の交流の促進や流域を単位とした交流拡大の可能性を見出すために、今年度、学生を中心とした活動グループを発足し、今回の企画活動の提案に至った。

(3) グループメンバー以外の協力者・協力団体（行政・企業・専門家など）と具体的な協力の内容
（あれば以下にご記入ください）

・東京工業大学　土肥研究室
・福永順彦　氏（場所づくり研究所プレイス）
・市川徹　氏（株式会社　世田谷社）
・首藤万千子　氏（ＮＰＯ法人プレーパークせたがや）
・清野隆　氏（江戸川大学社会学部現代社会学科）

また現在いくつかの市民活動グループとの協力を取り付け、「①名刺づくり」への了解を取り付けている。

４．活動の実施に関わる収支計画

（1）支出

（補足資料を参照のうえご記入ください。外注費、機材･備品費にファンド助成金を充てる場合は、自己資金の充当額･比率に関わらず、必要な理由を明記してください。）

費目	内容（算出根拠）	金額(円)	ファンドへの申請額(円)	費目小計(円)
デザイン料	･オリジナル名刺のデザイン (5種×両面＝10パターンのデザイン料) ※今後の活動展開を視野に、デザインの専門家に委託し、名刺として完成度の高いものに仕上げる		50,000	50,000
交通費	･ヒアリング調査に掛かる電車･バス等の交通費 (3000 円/月 ×10 カ月 ＝30,000 円)		30,000	30,000
製作費	･オリジナル名刺の制作費 （40G ×2-3 名/G×100 枚(1 セット)/人＝8,000～12,000 枚） 作成予定。 単価：15 円/1 枚で、120,000～180,000 円。予算として 15 万円を申請。		150,000	150,000
通信費	･報告書等の郵送費		5,000	5,000
合計(円) ① Ａの金額の万円未満を切捨て、応募用紙１頁の助成申請額の欄にご記入ください ② 助成申請額が必ずＡの金額以下であることを、確認してください			A 235,000	B 235,000

（2）収入

（応募する活動に充当する予定の収入をお書きください）

費目（会費、参加費、団体助成、寄付など）	金額(円)
公益信託 世田谷まちづくりファンド助成（申請額）	C 235,000
合計(円) (ＡとＣ、ＢとＤの数字は一致させてください)	D 235,000

５．これまでの活動実績および今後の活動展望

(1) 昨年度の活動成果・自己評価を記入してください。

＜活動成果＞

なし

＜自己評価＞

なし

(2)今後 1～3 年程度の活動展望（確定した計画ではなく、大まかな計画、こんなことに挑戦してみたい、との内容でも構いません）

今回の企画は、世田谷区内に生活する人であってもあまり知られていない、他の地域の市民憲章や都市宣言、川などの地域の自然を、市民活動を行う人/活動を通じて知り合う人に知ってもらう良いきっかけになると考えている。特に、今回の企画でつくられる「オリジナルの名刺」は世田谷区外の人と交換することも想定しており、世田谷区ではもちろんのこと、区外の人に対しても、世田谷のまちと地域の自然を紹介するきっかけともなる。さらに「こんな市民憲章/都市宣言があったらいい」や「この川の流域で活動を展開したいなど」、他の都市と比べることで、世田谷のまちへの意識の向上を図ることのできるように、活動をしていきたい。こんな風に、世田谷のまちを「外」に開きながら、世田谷の「内」の交流ネットワークの強化や、都市の掲げる理想の共有、地域の自然への愛着を高める、ということを考えており、以下のような活動の展開を想定している。

【1-3 年間：行政システムの中に「①名刺づくり」プロジェクトを位置づける】

別のまちから、世田谷区に引っ越してきた場合の、住民票などの転入手続きをする際に、「①名刺づくり」プロジェクトで紹介したオリジナル名刺が、区役所から個々に配布される。このような現在の行政システムの中に、新規転入者を対象とした今回の「①名刺づくり」プロジェクトを位置づけて、世田谷区内の市民活動への参加の推進や地域の自然への愛着を増進につなげていきたい。

【2-3 年間：世田谷発祥のシステムとして他の自治体にも「①名刺づくり」プロジェクトを位置づける】

世田谷区内で、このオリジナル名刺を普及させることができれば、他の自治体においても同様のオリジナル名詞をつくる機会を得られる可能性がある。隣接する区や都の範囲など、お互いに自慢できるまちとして、またお互いの自然を理解しあって交流し、その相乗効果として流域単位での意思決定や、独自の憲章・都市宣言の創造などが出来るような下地としたい。この中で世田谷発祥の「オリジナル名刺」としてその価値を普及させ、世田谷のまちのブランド力を高めていきたい

【長期：都市の範囲を超えて】

市民活動の領域は、世田谷ファンドの助成部門に「震災復興部門」があるように、世田谷のまちだけに留まらない。遠く離れた地域でまちづくり活動を行うことは、反対に世田谷でのまちづくりの特色や連帯感を高めることにつながっている。このような、都市の枠組みを超えて、東京都全体、日本全体、または世界中の都市と、都市の理想や自然をお互いに理解し合ってつながっていくことを目指したい。

前年度　収支計算書

※前年度に、収支を伴う活動を実施したｸﾞﾙｰﾌﾟは、この様式に収支計算書を作成しご提出ください。ﾌｧﾝﾄﾞ助成事業のみではなく、ｸﾞﾙｰﾌﾟが実施した全活動についての収支計算書をご提出ください。
※PC等により作成した、類似書式を提出しても構いません。
※前年度にファンド助成を受けたか否かに関わらず、収支を伴う活動を実施したｸﾞﾙｰﾌﾟは、必ず提出してください。
※前年度に、ﾌｧﾝﾄﾞ助成事業以外の事業を行わなかったｸﾞﾙｰﾌﾟは、前年度分の「会計報告兼助成金使途報告書」を提出しても構いません。

（1）支出

費目	内容 （主要な内容を簡略に記入して下さい）	金額(円)	費目小計 (円)
	なし		
合計(円)			A

（2）収入

費目（会費、参加費、団体助成、寄付など）	金額(円)
なし 世田谷まちづくりファンド　助成金	
合計(円) （支出合計Ｂと収入合計Ａの数字は一致させて下さい）	B